

氏名		受験番号	
----	--	------	--

2021年度 大学院入学試験問題

教育人間科学研究科

心理学専攻 博士前期課程 臨床心理学コース<一般入試(春)>

専 門 C

解答は、I, IIそれぞれ別の解答用紙に記入のこと。

I 以下の7つの設問のうち3つを選び、できるだけ多くの学術用語を用いて答えなさい(ただし、選択する3つの問題のうち2つは必ず問題1~3の中から選択すること)。なお、解答の中の学術用語には、下線を付し、その用語に対応する英語をその語のすぐ後の括弧でくくって書きなさい。同一の用語を同じ設問中に2度以上用いるときは、下線の英語の初出の用語のみでよい。

1. 森田療法について「あるがまま」という観点をを用いて説明しなさい。
2. 心理臨床実践におけるテスト・バッテリーの重要性について、具体的な検査名を挙げながら論じなさい。
3. 外在化という技法について共同注意という語を用いながら具体例を挙げて説明しなさい。
4. 中年期の危機について、中年期の入り口に経験される変化をできるだけ多く挙げながら説明しなさい。
5. 気分一致効果について、それに関わる概念や理論にも触れながら説明しなさい。
6. 知的障害(知的発達症)の診断・判定基準、原因、特性について説明し、どのような心理・社会的支援が必要だと考えられるか述べなさい。
7. 顔の認知過程と一般的な物体の認知過程の相違点について、例を挙げながら説明しなさい。

氏名		受験番号	
----	--	------	--

2021年度 大学院入学試験問題

教育人間科学研究科

心理学専攻 博士前期課程 臨床心理学コース<一般入試(春)>

専門 C

II

刺激の感情価と覚醒度の違いが刺激を見る時間に与える影響を調べる実験を行った。まずは、予備調査で、さまざまな写真について、見ていてどのくらい快と感じるか、身体的な覚醒を感じるかを調べた。その結果にもとづき、喚起する感情価と覚醒度が異なる以下の6枚の写真を選定した。

写真1 感情価：快、覚醒度：高

写真2 感情価：快、覚醒度：低

写真3 感情価：中性、覚醒度：高

写真4 感情価：中性、覚醒度：低

写真5 感情価：不快、覚醒度：高

写真6 感情価：不快、覚醒度：低

本実験では、上記の6枚の写真をランダムな順序で提示した。各参加者は、写真提示の終了ボタンを持っていて、自分が見たい時間だけ各写真を見ることができた。

各写真が提示されてから終了ボタンが押されるまでの時間を求め、写真ごとに全参加者の平均値を算出した。その結果を示したのが図1である。以下の問いに答えなさい。

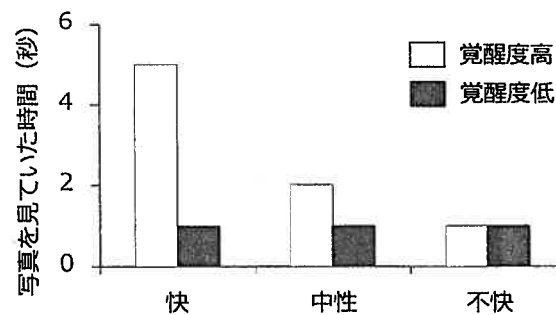


図1 各感情価・覚醒度の写真を見ていた時間

(1) この実験における要因の数と水準の数を答えなさい。また、参加者間計画・参加者内計画・混合計画のどれかも答えなさい。

(2) 分散分析により、各要因の主効果と交互作用を調べる。図1から、各要因の主効果の有無、および交互作用の有無を予想して答えなさい。そのように予想した理由についても説明しなさい。

(3) (2)の分散分析では明らかにできない点を指摘し、それを調べるためにどのような統計的分析を行えばよいのかを述べなさい。

氏名		受験番号	
----	--	------	--

2021年度 大学院入学試験問題

教育人間科学研究科

心理学専攻 博士前期課程 臨床心理学コース<一般入試(春)>

専 門 A

解答は、I、IIそれぞれ別紙解答用紙に日本語（または英語）で記入のこと。

あなたが今までに行ってきた心理学の研究、あるいは、これから行おうと考えている心理学の研究について、次の設問I、IIに答えなさい。

I. 次の6つの側面のうち必要なものに触れながら、その研究の概要を全部で5行程度で述べなさい。

1. 研究目的
2. 研究対象（例 幼児、青年、うつ病患者、障害者、など）
3. 心理機能（例 思考、動機づけ、対人関係、人格適応、自我機能、など）
4. 研究方法（例 観察、質問紙、実験、面接、事例研究、など）
5. 研究の視点（例 発達、人格、効果、過程、文化比較、など）
6. 理論的枠組み（例 認知心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学、精神分析学、など）

II. 心理学の先行研究における上記Iの位置づけについて述べなさい（必要なら、他の学問分野に言及してもよい）。